

スカイツリーで温暖化ガス観測 国立環境研究所

2017/8/7 0:09

■国立環境研究所 世界一高い電波塔、東京スカイツリー(東京・墨田)で二酸化炭素(CO₂)など温暖化ガスの観測を始めた。成分を詳細に分析することで、化石燃料の燃焼や植物の呼吸など排出源を推定できる。大都市での温暖化ガスの排出量や吸収量を詳細に把握できるようになるという。

スカイツリーの高さ 250 メートル付近に CO₂ やメタン、一酸化炭素などの観測機器を設置した。周囲に建物が無く、空気が均一に混じっているため状況を把握するのに適しているという。

炭素原子の重さのわずかな違いから、植物の呼吸によるのか化石燃料の燃焼によるのか排出源を推定できる。さらに酸素濃度を分析すると、燃やしたのが天然ガスなのか石油なのかも分かるという。富士山など別の場所の観測データと比較すると、大都市での排出量などが把握できる。

